東京都家庭薬工業協同組合会報

かていやく

平成24年1月　通巻89号

霊峰富士山

かていやく

本組合は、組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員のために必要な共同事業を行い、もって組合員の自主的な経済活動を促進し、かつ、その経済的地位の向上をはかることを目的とする。

定款　第1章　第1条(目的)より

目　次

通巻89号　2012年1月31日

特集
第4回OTC医薬品に関する普及イベント開催
よく知って、正しく使おうOTC医薬品 3

委員会だより 7
総務、薬事制度・薬事、薬事制度・品質、
流通、労務、消費者対応、未来策定、
情報広報・インフラ、情報広報・広報誌

家庭薬ロングセラー物語／御岳百草丸 15

家庭薬グラフィティー 17

事務局だより 20
編集後記

表紙題字／第4代理事長　津村重舎
表紙写真／理事長・救心製薬㈱ 代表取締役社長　堀　正典

特集　第4回　OTC医薬品に関する普及イベント開催

よく知って、正しく使おうOTC医薬品

【主催】　一般用医薬品普及啓発イベント実行委員会　委員長　藤井隆太（東京生薬協会会長）
（社）東京生薬協会、（社）東京薬事協会、東京都家庭薬工業協同組合、
日本OTC医薬品協会、（社）東京都薬剤師会、（社）東京都医薬品登録販売者協会

第4回OTC医薬品に関する普及イベント「よく知って、正しく使おうOTC医薬品」が2011年9月9日（金）および10日（土）にJR新宿駅西口イベント広場で開催されました。

JR新宿駅西口での開催は2011年で4回目です。本イベントは、日常の予防・健康管理の大切さとともにOTC医薬品を上手に使う大切さを生活者に発信することを目的として、当組合員を中心にOTC医薬品メーカー28社が出展協力をしました。

ここではその様子を紹介します。

9月9日（金）、10日（土）にかけてJR新宿駅西口イベント広場にてOTC医薬品に関する普及イベント「よく知って、正しく使おうOTC医薬品」が開催されました。

本イベントは2007年10月、東京都薬用植物園において「セルフメディケーションと家庭薬」をテーマに日常の予防・健康管理の大切さとともに一般用医薬品を上手に使う大切さを生活者に発信することを目的に始めました。2008年10月には開催場所をJR新宿駅西口イベント広場に移し、2011年で4回目の開催となります。

藤井隆太実行委員長は「本イベントの特徴は医薬品の情報をメーカーから直接生活者に伝えることで、生活者にセルフメディケーションについて知ってもらいOTC医薬品を上手に使う大切さを生活者に発信することです」と述べました。

会場では、医薬品などの商品紹介、東京都薬剤師会・東京都医薬品登録販売者協会による薬剤師や登録販売者のおくすり相談、模擬薬店での医薬品サンプリング、クイズ

「『自分の健康は自分で守る』という意識を生活者に持っていただくことが重要だ」と語る藤井実行委員長

模擬薬店でサンプルを配布。参加した薬剤師は「多くの人がセルフメディケーションを理解して自分でOTC医薬品を選べることができるよう、薬剤師も店頭でわかりやすい情報提供をしていきたい」と話す

模擬薬店に隣接されたお薬相談コーナー（東京都薬剤師会）。「日頃、聞けなかったことが相談できてよかった」との声が来場者から聞かれた

来場者に配布されたクイズラリー・アンケート用紙。アンケートはイベントに関するもの、震災（備蓄薬）に関するものなど4種類あり、希望する来場者に配布された

アンケート調査を実施した東京薬科大学教授の渡辺氏は「このイベントを通して多くの方にセルフメディケーションを普及させたい」と語る

クイズラリーは全部で6問出題された。「OTC医薬品と大衆薬と一般用医薬品の違いは?」という質問に対して、来場者からは「全て同じことを指すと初めて知った」という声が聞かれた

ラリー、くすりに関する紙芝居などを行いました。

また、東京薬科大学・渡辺謹三教授監修のセルフメディケーション理解度調査、OTC医薬品をサイトで予約し、薬局で購入するシステムの「e-健康ショップ」（提供：東邦薬品）およびセルフメディーションデーターベースセンターによる医薬品の情報提供の仕組みを紹介するコーナーなども設置しました。

来場者からは「家庭薬は歴史があって、安心して使える」「商品を見て子どもの頃を思い出し、懐かしさを感じることができてよかった」といった声が聞かれ、期間中多くの来場者が訪れました。

セルフメディケーションの役割・意義、一般用医薬品に関する正しい使い方等の情報を引き続き発信するため、実行委員会は来年度も継続して行うことを決定しました。

後援を頂きました厚生労働省および東京都に感謝を申し上げます。

※イベントの様子はホームページでも紹介しています。

会場内には東日本大震災の支援活動を紹介したブースも設置された

東京薬事協会が準備した紙芝居。「くすりの神様」「くすり珍道中」の2部で構成されている

サイトでOTC医薬品を予約し、指定の薬局で購入できるサービスを提供した「e-健康ショップ」（東邦薬品提供）は今年のイベントの目玉の一つだ

おくすり検索体験コーナー（提供：セルフメディケーションデーターベースセンター）、調剤体験コーナー（提供：高園産業）、ハンドマッサージコーナー（提供：ユースキン製薬）などさまざまなブースが設置され、「来年もぜひこのイベントを開催してほしい」という声が多く聞かれた

出展協力企業（28社）

㈱浅田飴

イチジク製薬㈱

イワキ㈱

宇津救命丸㈱

㈱太田胃散

大塚製薬㈱

救心製薬㈱

杏林製薬㈱

㈱キンカン

㈱恵命堂

興和㈱

佐藤製薬㈱

三宝製薬㈱

ジェーピーエス製薬㈱

翠松堂製薬㈱

大幸薬品㈱

大鵬薬品工業㈱

㈱大和生物研究所

玉川衛材㈱

㈱東京甲子社

㈱トクホン

長野県製薬㈱

森下仁丹㈱

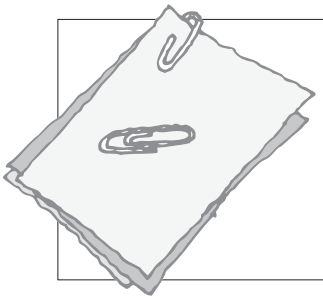
㈱山崎帝國堂

ユースキン製薬㈱

養命酒製造㈱

㈱龍角散

わかもと製薬㈱



委員会だより

総務委員会

委員長　太田　美明
（株式会社太田胃散　代表取締役社長）

総務委員会は、事業年度ごとの年次報告・事業報告、収支予算・決算等の審議および事務職員の処遇等組合運営の要の事項に関して協議し、協議結果を理事会へ提案し、最終的には通常総会の承認を得て執行されることになっています。また、平成23年4月から㈱金冠堂山﨑充社長が委員に参加されています。

老朽化が進む家庭薬ビルの建て替え問題については、平成22年8月に臨時委員会を開催以降、3回の委員会審議を経て平成23年3月29日の委員会で報告書を取りまとめ、平成23年4月開催の理事会へ提案し承認されました。本誌『かていやく』88号で途中経過について報告していますが、最終報告の概略は以下のとおりです。

1．検討経過

耐震診断調査および建て替えに係る下記の4案およびテナント契約の更新に関して其々の内容、実施の可能性、問題点等を検討しました。

①耐震診断調査の実施
②等価交換による建て替え
③等価交換以外の土地活用による建替え
④ビル・所有地の売却
⑤テナント賃貸契約の更新

2．検討結果

組合員の新たな負担を避けることを前提に、上記を検討した結果、②の等価交換方式に

よる建て替えを行い、提供する現在地の土地価格に見合った居住部分を新ビルに確保する権利を得て、事務所を設置することになりました。

また、実施時期についてはテナントとの賃貸契約状況および円満な立ち退きを考慮し、平成27年3月以降に建て替えの具体的な検討を行うことになりました。

平成23年4月に賛助会員1社が入会されました。一方、年度中に組合員1社および賛助会員1社の退会がありました。賦課金等の減となり、これまで以上に効率的な組合運営を図っていますが、各委員会をはじめ組合員各位のご協力をお願いします。

薬事制度委員会 薬事部会

委員長・部会長　田岡　照朗
（株式会社龍角散　開発本部医薬課　課長）

薬事制度委員会薬事部会は、薬事、安全性等に関連して直面する諸問題について、関係団体と連携し、懸案事項の検討を行っています。

昨年は震災の影響で、計画停電、放射能

等世の中がいろいろ対応に追われました。

放射性物質に関わる生薬製剤の取り扱いについては、厚生労働省医薬食品局監視指導・麻薬対策課長通知が10月14日、「放射性物質が検出された生薬を含む製剤は販売してはならない」というかたちで通達されました。

また、リスク区分の見直しに伴う生薬・漢方製剤の見直しに関しては、4月の安全対策調査会を経て、パブコメで数々の要望をしてきました。9月30日に告示が出され、2012年4月1日に施行となりました。

使用上の注意記載要領改訂は、2年にわたり安全対策課、機構安全部、OTC5団体で検討されてきましたが、ようやく10月14日に局長通知が出されました。改訂のポイントは、医療用医薬品の記載内容の反映、服用前相談の外箱記載等多岐にわたっています。経過措置期間は、2014年5月31日までです。

承認基準関連としては、鎮痒消炎薬製造販売承認基準が11月1日に局長通知として発出されました。適用は2012年6月1日です。

薬事法改正については、昨年4月の薬害肝炎検討委員会の最終提言を受けて、薬害再発防止のための医薬品行政等の見直しが行われています。厚生科学審議会　医薬品等制度改正検討部会で議論されています。

主眼は、医薬品等関係者への安全対策への取り組みの促進、医薬品等監視の強化です。添付文書については、今後法制化（届出制）されると思われ、注視が必要です。検討部会は年内に終了し、来年の通常国会への法案提出を目指しています。

薬事部会では、日薬連委員会報告（薬制委員会、安全性委員会、品質委員会、規制緩和部会）、OTC5団体協議会報告、その時々の課題に対しても協議しています。

また、組合の掲示板への議事録等掲載により、薬事関連事項の共有化ができ、少しでもお役に立てられると思います。

薬事制度委員会 品質部会

部会長　内藤　功一
（株式会社浅田飴　製造部品質管理課　課長）

1．薬事制度委員会品質部会の発足

今年度より旧GMP委員会は旧薬事委員会と統合して薬事制度委員会となり、旧GMP委員会は品質部会、旧薬事委員会は薬事部会として再スタートを切りました。これを機に品質部会では薬事部会委員の方にも積極的に参加いただき、広く情報や意見を取り入れていきたいと考えています。特に日薬連等の大きな団体では扱われにくい家庭薬の団体特有の問題に焦点を当てて、吸い上げや解決を図っていきたいと思っています。

2．今後の活動方針

○コンピューター化システム適正管理ガイドライン

2012年4月からコンピューター化システム適正管理ガイドラインが施行されます。施行までに規定、基準書、手順書、システム台帳等の整備を進めなければなりませんが、これらについては大家協が家庭薬向けに作成中のフォーマットを完成後、配布する予定です。また、カテゴリー分類についてボーダーライン上にあり分類に悩むシステムを取り上げ、どのような考え方でどう分類すべきかについて討論し、部会としての見解を示していきたいと考えています。

○PIC／S　GMP対応

日本もついにPIC／Sに加盟する意向を示しており、GMP査察にどのように影響していくのか、企業はどのように対応すべきなのかを情報交換し、認識を深めていくつもりです。

○品質問題発生時の緊急対応体制

最近、「放射性物質に係る漢方生薬製剤の取扱い」の通知が出ましたが、この例のような緊急時においても家庭薬メーカーの意見や状況が反映されるような仕組みづくりに取り組んでいきます。また、この放射

性物質の問題についても今後の見通しが立っていない状況から、最新情報について情報収集の場としていきます。

○局方改訂

16局改訂について精製水の有機体炭素の測定をはじめとして、家庭薬メーカーには負担の大きい変更もあり、そのような問題を取り上げ検討します。

○GMP研修見学会

今年度は例年より時期が遅くなりますが、株式会社ツムラ茨城工場の見学を予定しています。大震災により一時は操業停止となりましたが、現在は復旧されているということで、GMPに限らず復旧までの苦労や教訓についてお話ししていただく予定です。今年度限りの大変興味深い貴重な話題ですのでぜひご参加ください。

流通委員会

委員長　赤阪　完一
（救心商事株式会社　常務取締役）

昨年は3月に発生した東日本大震災以降、さまざまな要因が複合的に重なって社会全体が八方ふさがりの様相を呈し、薬業界も諸情勢の影響を受けて大苦戦を強いられた一年であったと思います。

大衆薬の右肩下がりに歯止めがかかっていない状況の中で、家庭薬市場の活性化および伝統薬の拡大を目指して対応していきたいと考えています。

1．常任委員会（五月会）の開催

常任委員会を毎月開催し、業界動向に関する情報交換や業界行事の確認、家庭薬共同販促企画等について協議をしました。

2．東家協：流通委員会開催

①平成23年6月に開催を予定していましたが、東日本大震災の影響を考慮して中止し、全家協流通委員会として開催しました。

②平成24年2月に開催予定（第2回）

3．全家協：流通委員会開催

①平成23年6月13日（第1回）

流通問題に関する諸問題について情報交換を行い、㈱ダイヤモンド・フリードマン社の田中浩幸氏に「ドラッグストアニュース日本版」というテーマでご講演を頂きました。

②平成23年11月14日（第2回）

直近の流通問題について情報交換を行い、ジェイビートゥビー㈱の奥島晶子氏に「店頭活性化に向けたCRMデータの活用について」というテーマでご講演をいただきました。

4．家庭薬共同販促企画について

①平成23年5月に、北海道の㈱サッポロドラッグストアー様の120店舗で、組合員等家庭薬メーカー24社が参加して家庭薬フェアを実施しました。

労務委員会

委員長　荒井　聡
（株式会社ツムラ　取締役人事部長）

現在、労務委員会には、秋山錠剤、浅田飴、イチジク製薬、太田胃散、河合製薬、救心製薬、金冠堂、東京甲子社、トクホン、養命酒製造、龍角散、わかもと製薬、ツムラの13社が加入しており、通常では年4回の定例会を開催しています。

平成23年3月度の定例会については、東日本大震災の影響で中止となりました。

昨年中（平成23年）に実施された定例会の議案・検討事項は、以下のとおりとなっています。

◇6月度 定例会〈平成23年6月30日（於：ツムラ本社2階会議室）〉

①平成23年度の春季労使交渉について
②夏季賞与に関する情報交換
③震災に伴う労務管理上の対応について（計

画停電中の休業に関する取り扱い等）

◇9月度 定例会〈平成23年9月15日～16日（於：ツムラ 軽井沢研修所）〉

①人事労務施策に関する情報交換
②健康管理対策とメンタルヘルスケア
③東家協HP専門部会専用ページの開設について

◇12月度 定例会（開催予定）
〈平成23年12月16日（於：ツムラ本社2階会議室）〉

①冬季賞与に関する情報交換
②東家協HP労務委員会専用ページの今後の運用について
③税と社会保障の一体改革に関する意見交換

上記のうち、9月度の定例会につきましては、例年どおり合宿形式で開催し、昨今の人事労務管理上の諸課題を中心に、2日間にわたって白熱した意見交換が行われました。

年々企業では、人事労務管理に関する諸問題が経営上も重要課題となってきており、労働時間管理、育児介護をめぐる諸問題、健康管理施策とメンタルヘルス対策、パワーハラスメント、雇用延長の問題など、ますます人事労務施策の重要性が認識されてきています。

労務委員会では、今後とも、先進他社事例も含めた最新情報や知識を共有化し、会員各社の人事労務施策の立案および展開等に、具体的に寄与する場として活用していきたいと考えています。

消費者対応委員会

委員長　堀口　登志夫
（養命酒製造株式会社 マーケティング部お客様相談室長）

この1年間におきましては、当委員会の主な活動の一つである「消費者対応担当者研修会」を開催しました。また、定例委員会

を4回開催しましたので、簡単にその内容についてご報告します。

1．第14回消費者対応担当者研修会について

昨年3月9日、東京薬業健保会館にて、出席者数37名にて開催しました。ご高承のとおり、現在、OTC医薬品を取り巻く環境は様変わりを続け、消費者対応担当者の業務はさらに複雑化しています。今回の研修会についても、こうした点を鑑み、実務に直結したスキルアップを目指す内容としました。

講師には、二度目のご登壇となりました医薬品PLセンターの佐久間事務局長、ロート製薬 製品情報センターの奥田氏（大阪家庭薬協会・消費者対応副部会長）を招聘しご講演いただきました。佐久間事務局長には、PLセンターにおける業務活動紹介をはじめ、企業の消費者対応担当者における副作用苦情への対応方法等に関して、具体的な留意点を中心に細かにご教示いただき、我々担当者には実務において参考となりました。

奥田氏からは、ロート製薬様におけるクレーム対応を中心に、具体例を交えながらノウハウをご教示いただくとともに、お客様対応を通じて得た、より質の高い対応法や理念、また商品への反映事例等のお話もいただき、当日の参加者には非常に有益な講演となりました。

また、織田副委員長より、一昨年9月に行われたJR新宿駅西口イベントでのアンケート結果報告および委員各社に寄せられた「副作用被害救済制度」表示後の制度等への問い合わせ件数とその内容等について報告を

行いました。

今後とも、こうした研修会を通じ、加盟各社全体の消費者対応のスキルアップを図れればと考えています。

2. 定例委員会開催について

昨年2月、6月、8月、11月の4回にわたり、定例委員会を開催しました。主な内容として、①日薬連くすり相談対応部会の内容要旨報告②今年度の活動方針および内容等の検討③消費者対応担当者研修会の内容等の検討④東西合同消費者対応委員会における討議内容等の検討⑤OTC関連5団体合同主催によるアンケート実施内容等の検討⑥会員各社における消費者対応業務、クレーム事例研究、GQP・GVP対応業務―について、それぞれ活発に意見交換および情報交換を行いました。

活動方針、研究内容については基本的に前年度と同じ目標としましたが、特に委員が対応した難クレーム事例研究の場においては、相互に活発に意見交換がなされ、日頃お客様と対峙する我々担当者にとっては、実務上、非常に有益となる時間であり、互いが情報交換を図りつつ有意義な議論も行うことができました。

今年度の東西合同消費者対応委員会については、本年2～3月に実施予定としていますが、例年の活動内容に加え、「一般用医薬品のあり方」などに関する専門家を招聘し、講演いただくこととしています。また、昨年度に講師として招聘したスギメディカル株式会社・教育事業部部長の榊原幹夫様とのご縁から、昨年10月には東家協加盟各社10数社より、自社主力製品に関する情報提供（Q＆Aの提供）も実施できました。

なお、本年度の消費者対応担当者研修会については、諸般の事情により開催せず、来年度に開催する予定です。

3. OTC関連5団体合同主催によるアンケートについて

先にもご報告のとおり、一昨年より、OTC関連5団体（全国家庭薬協議会、日本OTC医薬品協会、日本医薬品直販メーカー協議会、日本漢方生薬製剤協会、全国配置家庭薬協会）に加盟する製薬企業の消費者対応委員会代表者による会合を適宜開催していましたが、昨年ご案内のとおり、5団体の合同主催によるアンケートを実施する運びとなりました。これは、OTC医薬品を製造販売している製薬企業個々のお客様相談業務の実態を把握するとともに、業界団体間の相互理解を深め、製薬企業各社の資質向上を図ることを主目的としましたが、まずは、各団体におけるお客様対応業務を知るべく、「相談窓口の現状」「相談状況の現状」「問合せ・クレームの状況」等、9つの項目を主要項目とし、実態把握を試みました。

アンケート結果につきましては、現在集計中ですが、本調査結果を踏まえ、今後の相談業務の在り方を提言し、OTC医薬品に関係する団体との連携を深めるとともに、適正使用推進に向けた提言等を発信できればと考えています。また、このようなアンケートについては、今後とも継続して実施し、団体相互の情報共有を活発に行うべきものと認識しています。他団体との活動や情報交換、合同委員会を通じての関係強化については、今後とも、種々の問題に直面していく際にも、大きな総合力となり、各団体それぞれにもメリットがあり、必要不可欠な結びつきになると考えています。

以上、ご報告申し上げましたが、当消費者対応委員会におきましては、委員で力を合わせ協力し合いながら、定例委員会をはじめ各活動を通じて、様々な情報を収集、発信することにより、今後とも東家協加盟各会社全体の消費者対応に関するスキルアップを図るべく、積極的な活動に取り組んで行きたいと考えています。

どうぞ、このような主旨をご理解いただき、今後とも、皆様におかれましては、何とぞご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

未来策定委員会

委員長　藤井　隆太
（株式会社龍角散　代表取締役社長）

旧情報協業化委員会の発足から15年が経過し、委員会回数も150回を超えたことを機会に、より未来思考で業界の枠を超えた活動を展開すべく「未来策定委員会」に改名しました。引き続き主な構成メンバーである若手経営者クラスにより、戦略的思考で業界の未来策定と各施策の試行を実施しています。最近の検討状況は次のとおりです。

1．お取り寄せ

「御社の製品を売っているお店を教えてほしい」「お店で取り寄せられないと言われた」など、お客様からの問い合わせがあった時どうしたら良いでしょう。お客様に直接郵送することは現在の法規制では困難です。そこで「お取り寄せ」の出番なのです。

あらかじめ設定した個店リストから最寄りのお店をお客様にご指定いただき、既存の配送ルートを通じて配送、あとは通常どおり店頭でお買い上げいただきます。過去3年間、約2,000店の個店を配送先として実施してきましたが、今般、東邦ホールディングス様による「e-健康ショップ・おくすり予約」と連携することにより、配送先に約12,000店の調剤薬局が加わりました。大幅にカバー率が上がるとともに調剤薬局に関しては納期も最長4日程度と短くなっています。

2．共同販促企画

5月の「サッポロドラッグストアー常備薬フェア」では24社が参加、第2回目となった一本堂「家庭薬共同キャンペーン」には15社（前回8社）が参加しています。

いずれも集合展示による集客力と店頭での販促ツールにより広告では伝えきれない家庭薬の魅力を訴求した結果、店頭売価を下げずに前年同月比を大幅に超えた店頭消化を記録しており、キャンペーン終了後も好成績を維持しています。今回、一本堂の店頭で実施したアンケート結果では、購買者の半分以上が新規顧客であったことが確認されました。

3．海外関係（全家協国際委員会と連携）

震災をはさんで2カ月実施した台湾での共同販促企画は、第1回目の丁丁薬局・健康人生薬局に、台中の佑全を加えて合計約150店となりました。「母の日の一番の贈り物は家族の健康」が今回のコンセプト。震災直後でしたが現地へのミッションも企画し、薬剤師向けの大規模な説明会や本部・店頭への表敬訪問を実施しています。震災直後ということもあり、日本を支援したいという雰囲気が、ひしひしと感じられました。

8月には香港でのICMCM展示会に5回目となる共同出展を実施し、香港衛生署にも初めて招待されました。10月には香港で初となった共同販促を地域量販店CRCareで実施しています。

4．インバウンド企画

海外からの旅行者向けの共同広告と共同販促企画を季節ごとに実施しています。震災の影響により東京向けの旅行者は一時的に激減しましたが、札幌や中部、関西方面は好調で店頭展開も積極的に行われています。

5．展示会関係

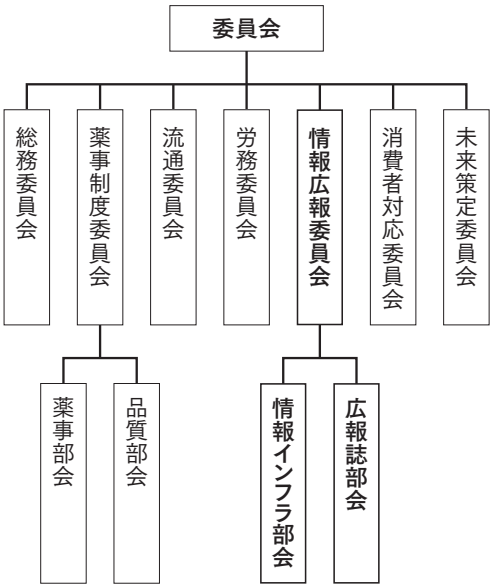
JR新宿駅西口で開催された「OTC医薬品に関する普及イベント」は今回で4回目となりました。厚生労働省と東京都の後援により、東京生薬協会、日本OTC医薬品協会、東京薬事協会、東京都薬剤師会、東京都医薬品登録販売者協会との共催で、メーカー28社が参加しました。

3月16日から開催が予定されている「第12回JAPANドラッグストアショー」には、全国家庭薬協議会の共同ブースに協会加盟の全製品を初めて集合展示する計画です。

情報広報委員会 インフラ部会

委員長・部会長　大泉　高明
（株式会社大和生物研究所　代表取締役社長）

昨年は組合委員会の再構築の一環として、「IT委員会」と「広報広告委員会の広報誌部会」が一つになり、新設されたこの「情報広報委員会」の下に、「広報誌部会」と「情報インフラ部会」が設けられました。



（委員会の組織図）

私はこれまでの委員会活動を通じて、常に何のための委員会活動か、誰のための委員会活動かということを、委員各位と考えてきました。これが十分に達成できてきたわけではありませんが、常にこのことを確認し続けることが大切ではないかと考えています。

今回新設された情報広報委員会では、情報化社会における組合活動の在り方を模索して、これを基に組合全体の活性化に資することを目標にしています。具体的には大きく分けて、組合の外に対する情報戦略と戦術、組合の中に対する情報戦略と戦術があります。前者ではこれまで情報発信ツールとして使っていたホームページ（東家協、全家協、大家協）と年2回発行の広報誌『かていやく』のそれぞれの役割と在り方を全面的に見直すことで、当組合の広報を充実させるとともに、他の情報ツール、媒体を含めて有機的な情報提供サービスを目指します。例えば、これまでの『かていやく』に課せられてきた役割、紙面構成を見直し、各組合ホームページとセットで有機的な情報提供を行う予定です。

東家協ホームページ

全家協ホームページ

大家協ホームページ

東京都家庭薬工業協同組合会報『かていやく』

大家協（大阪家庭薬協会）とも年2回の定例会を通して連携し、全家協、東家協、大家協の各ホームページが有機的に機能するように整備を進めてきています。今後はコンシューマーに「家庭薬」の啓蒙を行うためのコンテンツも充実させる予定です。具体的には全家協ホームページは「家庭薬」の入り口としての機能とともに、コンシューマー向けのページとして充実させ、これを通じて組合各社および製品の認知向上に資することを目指します。『かていやく』や東家協ホームページで好評をいただいている「家庭薬ロングセラー物語」は、今後は電子媒体としては全家協ホームページに移行され、大家協の各社も含めて充実を図ってまいります。

東家協と大家協のホームページは主に組合員に向けた、情報共有化ツールとしての機能に特化する方針です。当「情報インフラ部会」では、組合員相互の情報共有化のためのインフラ整備を進めてきており、既に11月よりリニューアルしたホームページを運用開始しています。これにより、組合員レベル、委員会レベルのそれぞれのレベルで、情報の共有化ができるようになっています。各委員会の活動内容が、議事録や配布資料から知ることができます。この他、掲示板やトピックスで組合に関する種々の最新情報等を知ることができます。

今後はホームページのブラッシュアップを行うとともに、各位と連携して以上の方向性に沿った活動を展開する予定です。

情報広報委員会 広報誌部会

部会長　武藤　毅
（株式会社龍角散　マーケティング部長）

『かていやく』89号をお届けします。歴史に残る1年が終わり、まさに新たなスタートの年を迎えました。『かていやく』も今号からホームページ上で公開されることとなり、新たな展開が始まります。紙媒体とWEB、どちらにも代えがたい媒体としての特徴があり、互いが補完し合うことになるはずです。まさに「広報誌」としての実力アップが実現しました。今年も組合員様のご協力をお願い申し上げます。

末筆となりましたが、本号発刊にご協力いただきました皆様に深く御礼申し上げます。

※各委員会の活動はホームページで閲覧することができます。

家庭薬ロングセラー物語

御岳百草丸

長野県製薬株式会社

●御嶽信仰と「百草」

御嶽（おんたけ）は長野県と岐阜県の県境にそびえる3067メートルの独立峰です。古くから修験道の道場として守られてきた歴史が長く、厳しい精進潔斎をしなければ登ることが許されませんでした。

百草は厳しい修行の必需品「御神薬」だったといわれ、胃腸薬としてはもちろん、打撲や捻挫にはシップとして、眼病には溶かして洗眼に用いたといわれています。

天明時代（1782年～）に入ると御嶽の開山とともに御嶽信仰が全国へと広がり、毎年多くの御嶽講社が登拝に訪れるようになりました。そしてその多くが土産として「百草」を購入されるようになり、信仰とともにその効能が全国へと広がることとなりました。

弊社工場の敷地内にある1892（明治25）年7月建立の「百草元祖の碑」によると、王滝村で天明年間2軒から始まり、この頃には17軒の百草製造販売所があったとの記載があります。昭和初期には御嶽山麓一帯で27軒にも上り、販売競争が激しくなったといわれていますが、1936（昭和11）年にはこの製造販売業者が相図り木曽製薬工業組合を設立、原料の共同購入、共同製造を行うようになりました。その後国家総動員法に基づく医薬品生産配給統制を受け、長野県売薬統制株式会社へ統合されることとなりましたが、1944（昭和19）年には長野県製薬株式会社と社名を変更、現在まで一貫して百草製品の製造販売を行っています。

かつて何日もかけて登拝された御嶽ですが、現在は交通網の発達で日帰り登拝が多くなりました。信者さん自体も高齢化や信仰心の薄れにより減少しており、百草製品の販売ルートも薬局や通信販売へと変化してきています。

修験道の道場として守られてきた御嶽

●疾病構造の変化と百草製品の役割

一方、疾病構造と百草製品の変遷を見ると、歴史に寄り添ってきたことが伺えます。古くは、疫病はたたりによるものとされ、加持祈祷が主な対処方法であった時代が長いと思われますが、昭和40年代以前の疾病の主な原因は、衛生状態が悪いことに起因する細菌感染症でした。

「御嶽百草」の原料はオウバクエキス（主成分：ベルベリン）で、腸内の病原菌に対し殺菌的に作用し、その後体内に吸収されることなく排泄されるため、体への負担が少ない薬として需要に適合してきたと考えます。かつての「百草」は竹皮に包まれた黒い塊で、割ることがとても大変でした。

1938（昭和13）年、より服用しやすい製剤として三代目社長が「百草丸」を開発、今でいう製造販売承認を最初に取得しています。「御岳百草丸」の主成分は当然オウバクエキスで、その他コウボク、ゲンノショウコ、センブリなどを配合、飲みやすい丸剤としたものです。

しかし昭和40年代頃までは、相変わらず「御嶽百草」を購入される方が多かったようです。その後、高度経済成長とともに衛生状態も飛躍的に改善され、徐々に飽食の時代となり、食べ過ぎ・飲み過ぎ・胃弱・二日酔いといった症状に対応する胃腸薬が求められるようになり、その頃から「御岳百草丸」の需要も高まって参りました。時代が進むとストレス時代となり、肉体的・精神的ストレスによる消化管の不調が多くなってきます。

1982（昭和57）年に発売したウコン入り胃腸薬「御岳百草顆粒」はボレイ・エンゴサクを加えストレス時代に対応した胃腸薬となっています。

●地域社会での役割

長野県は長寿県として知られていますが、その要因として水や空気が澄んでいること、地元の山菜やキノコ、野菜など自然の物を多く食べること、農業や観光業が盛んで高齢者になってもよく働き、生きがいを持って生活しているといったことが挙げられます。その他の要因として“百草をよく飲む”があるとすれば最大の地域貢献でしょう。

これからも信頼ある開かれた会社を目指し、地域産業として健康増進、産業・観光振興での貢献ができれば、先人の労苦に報いることになるのではないかと考えています。

御岳百草丸などを通して、健康増進、産業・観光振興での貢献を目指す長野県製薬

御岳百草丸　第2類医薬品

●効能・効果

食べ過ぎ、飲み過ぎ、胸やけ、胃弱、食欲不振（食欲減退）、消化不良、胃部・腹部膨満感、もたれ、胸つかえ、はきけ（むかつき、胃のむかつき、二日酔い・悪酔のむかつき、嘔気、悪心）、嘔吐

●用法・用量（1回服用量）

1日3回、食後に服用してください。

成人（15歳以上）……20粒
11歳以上15歳未満 ……15粒
8歳以上11歳未満……10粒
5歳以上8歳未満 …… 6粒
3歳以上5歳未満 …… 5粒
3歳未満は服用しないこと

〈用法および用量に関連する注意〉

（1）定められた用法および用量を厳守してください。
（2）小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させてください。
（3）本剤は、3歳未満の乳幼児には服用させないでください。なお、3歳以上であっても幼児に服用させる場合には、薬剤がのどにつかえることのないよう、よく注意してください。

●成分・分量（60粒（成人の1日の服用量）中）

オウバクエキス（原生薬換算量2240mg）… 1600mg
日局　ゲンノショウコ末 …… 500mg
日局　ビャクジュツ末 …… 500mg
日局　センブリ末 …… 35mg
日局　コウボク末 …… 700mg
添加剤として薬用炭、ヒドロキシプロピルセルロース、ポリオキシエチレン（105）、ポリオキシプロピレン（5）、グリコールを含有します。

〈成分・分量に関連する注意〉

生薬（薬用の草根木皮等）を用いた製品のため、製品により丸剤の色調・味が多少異なることがありますが、効果にはかわりありません。

家庭薬グラフィティー

薬祖神祭の様子

薬祖神祭
（10月17日、昭和薬貿ビル）

日本橋本町・昭和薬貿ビル屋上にある薬祖神神社の前で午後1時30分から当組合堀理事長ほかが出席し、神事が執り行われました。薬貿ビル前には協賛企業が寄贈した提灯が飾られ、午後3時からの一般参拝には日本橋界隈の薬業関係者を中心とした長い列が続きました。地元の子ども囃子のリズムが流れ、参拝者が行き交うにぎやかな祭りの一刻でした。

参拝する堀理事長

平成23年受賞者祝賀会および忘年会
（12月8日、グランドヒル市ヶ谷）

理事会終了後、グランドヒル市ヶ谷「翡翠の間」において受賞者祝賀会が行われました。10月に薬事功労者東京都知事賞受賞の栄誉を受けられた㈱龍角散藤井隆太社長に堀理事長から記念品が贈呈されました。都知事賞受賞は組合にとって極めて名誉であり、長年にわたる組合に対するご指導に謝辞を申し上げるとの理事長の祝辞があり、藤井社長の返礼の後、和やかに祝賀会および忘年会が行われました。

祝辞および乾杯の音頭を取る堀理事長

㈱龍角散　藤井隆太氏

締めの音頭を取る太田副理事長

平成24年 薬業四団体 新年賀詞交歓会（1月6日、帝国ホテル）

平成24年 全国家庭薬メーカー・卸合同新年互礼会（1月6日、帝国ホテル）

開会の挨拶をする牧田会長

乾杯の音頭を取る塩澤副理事長

中締めの挨拶をする風間副会長

平成23年度　第69回家庭薬軟式野球大会
久光製薬　第37回大会（昭和54年）以来2回目の優勝！！

第69回目の開催となった本年度大会は、東京薬業健保組合グラウンドで先行して開催された東京薬業健保大会が例年より遅れて終了になった関係で、11月27日に開始しました。参加は14社14チームで参加会社数は昨年度大会と同様でしたが、チーム数は1チーム減となりました。

途中2週にわたって雨天順延があり、12月18日に準決勝・決勝を行い、久光製薬が圧倒的な強さを見せて優勝し、惜しくもホーユーは準優勝に終わりました。第3位はバスクリンおよびフマキラーの結果でした。

優勝した久光製薬チーム

決勝戦の後、表彰式を行い、久光製薬に優勝カップ、優勝旗および優勝盾、ホーユーに準優勝盾を贈呈しました。また個人表彰には、久光製薬の林大輔さんに最高殊勲選手賞、ホーユーの下込悠矢さんに殊勲賞を贈呈しました。

惜しくも準優勝のホーユーチーム

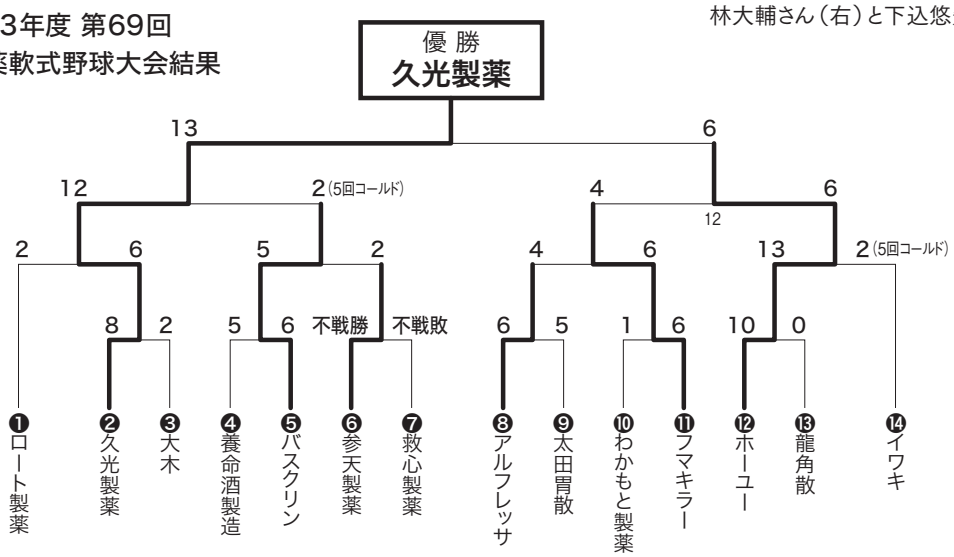
昨年度大会では試合中にけがをされた選手がいましたが、今年度は12月に入っての試合が続きましたが寒い中、事故なく終了したことは何よりでした。

試合に立ち会った野球委員各位および参加チームの皆さんに感謝申し上げます。

平成24年大会は、第70回大会となり同様に10月頃の開催を企画いたしますので、ぜひご参加ください。

個人賞を受賞した
林大輔さん（右）と下込悠矢さん

平成23年度 第69回
家庭薬軟式野球大会結果



事務局だより

●5月25日（水）

14時から第64回通常総会が神田明神会館「竹の間」において開催されました。理事会提案の平成22年度事業報告・財産目録・貸借対照表・損益計算書・剰余金処分の各案および平成23年度事業計画・収支予算案、賦課金・会費並びに徴収方法の各案が承認され、新年度事業がスタートしました。なお、6月3日には東京都知事および東京都中小企業組合連合会中央会あての平成22年度事業報告書を提出し、同日付をもって承認されました。

●7月22日（金）

12時から東京會館において一般用医薬品5団体会長等による会議が開催され、セルフメディケーションの振興を図るための組織として日本一般用医薬品連合会（略称：一般薬連）の設立が承認され、同日設立しました。5団体各自の活動に加えて、共通する政策提言や課題の解決に向けて、今後一般薬連が活動することになります。なお、同連合会代表者会議には全家協から牧田会長および柴田副会長が選任されました。

●8月4日（木）

14時から東京薬事協会においてJR新宿駅西口イベント実行委員会および出展企業説明会を開催し、出展会社に対してイベント実施に係る確認等を行いました。

●10月14日（金）

15時から野球委員会が開催され、第69回家庭薬軟式野球大会について協議しました。大会規約、参加チーム、試合日程、組み合せ、試合日ごとの立会委員等を決定し、大会は11月20日に開催としました。

●10月18日（火）

15時から情報広報委員会が開催され、組合HP委員会ページの運用開始に向けて各委員長・副委員長に対して、委員会ページ設置の目的、委員会ごとのパスワードおよび入力方法等について説明し、積極的に利用するようお願いしました。

●12月7日（水）

13時から東京・日本橋薬貿ビルにおいて平成24年度日薬連予算説明会が開催され、日薬連事務局から加盟団体の来年度会費について説明がありました。会費は本年度と同額ですが、組合員は地域団体として東家協を通じ、また業界団体として全家協を通じ会費を支払いしており、日薬連と今後協議することにしました。

●平成24年1月6日（金）

12時から帝国ホテル「富士の間」において東京薬業4団体新年賀詞交歓会および受賞者祝賀会が開催されました。当組合関係者として、東京都知事賞受賞の栄誉を受けられた㈱龍角散 藤井社長に記念品が授与されました。誠におめでとうございます。また、14時30分から同ホテル「桜の間」で全国家庭薬メーカー・卸合同新年互礼会が開催され、関係者多数の出席のもとに華やかに行われました。

編集後記

『かていやく』がリニューアルして初めての発刊を迎えました。委員会活動の見直しにより、今後は『かていやく』も情報広報委員会の中で、情報インフラ部会ともコラボレーションしながら、組合員の皆様への情報提供を充実させていければと考えます。昨年は、震災など自然災害が相次いだこともあって、以降「絆」が大切にされる世相となっています。家庭薬も、社会や生活者との「絆」に感謝し、人々の健康に少しでも多くの貢献ができるようにと願うばかりです。　（救心製薬株式会社・尾後貫）

かていやく

通巻89号　2012年1月31日
編集人：東家協情報広報委員会広報誌部会
発行所：東京都家庭薬工業協同組合
〒104-0061 東京都中央区銀座8-18-16
TEL 03-3543-1786　FAX 03-3546-2792
Eメールアドレス／tokakyo@tokakyo.or.jp
http://www.tokakyo.or.jp/